「8050」に不安 きょうだいを支援

桃の会 親亡き後に備え集い

扉の向こうへ
山梨発 ひきこもりを考える

50代のひきこもり当事者を80代の親が支える「8050（はちまるごーまる）問題」が深刻化する中、山梨県内の家族の集い「山梨県桃の会」（篠原博子会長）は「親亡き後」を考慮し、当事者のきょうだいへの支援を始めた。講演会を開いたり、心境を打ち明ける場を設けたりしている。兄弟姉妹が集まる場は全国的に少なく、桃の会は「ひきこもりの話題は家族同士でも避けがちで、将来に不安を募らせるきょうだいもいる。ひきこもりの知識や当事者との接し方を知ってもらう機会をつくりたい」としている。

「父は庭で転倒してけがをしたため高齢者施設に入り、母には認知症の初期症状らしきものがある。弟は長い間ひきこもりの状態で、家族が共倒れになるのではないかと不安」。20日に甲府市内で開かれた桃の会定例会で初めて設けられた、兄弟姉妹が語り合う場。弟が約20年にわたりひきこもりの状態にある大林裕さん(46)＝東京都＝が切り出すと、参加者は深くうなずきながら耳を傾けた。

アルバイトをしていた弟は20代前半でひきこもりになり、夜以外はほとんど外出しなくなった。「ひきこもりになった理由は話してくれず、働いたり勉強したりするように言っても何も変わらなかった」。弟の状態を知りたいと、KHJ全国ひきこもり家族会連合会（東京）が主催する「兄弟姉妹の会」に参加。より多くの家族と接点を持つため、2年前から桃の会に訪れるようになった。

兄弟姉妹の会への参加を通じて、ひきこもりへの見方が変わった。「怠けや甘えではなく、支援制度があることも知った。ほかのきょうだいの関わり方を知り、以前より気持ちにゆとりを持って接することができるようになった」。一方で、親に万が一のことがあったときにどうすればいいか悩んでいる兄弟や姉妹は多いようにも考え、桃の会に支援の必要性を訴えた。

桃の会にも、さまざまな相談や苦悩が寄せられていた。「ひきこもりの本人と会えず、親に聞いても『私たちがなんとかするから』の一点張りでらちが明かない」「家族がいるので自分の生活で手いっぱい。現実を見るのもつらい」「婚活中で『きょうだいはなにをしているの』と聞かれるのが怖い」―。「ひきこもりについてオープンに話し合う雰囲気がある家族はわずか。親もきょうだいにまで迷惑を掛けたくないとの思いが強い」と篠原会長。当事者や親とは異なる悩みに対応するため、サポートする取り組みを始めた。

7月に大林さんが体験を語る講演会を開き、11月にきょうだいが語らう場を設けた。初回の参加者は、きょうだいと当事者の合わせて5人。「同じ立場の人に会えて安心した」「当事者の気持ちを聞くことができてよかった」との声が聞かれた。篠原会長は「支え合いの場を通じて兄弟姉妹の声を聞き、どのようなサポートが必要なのかを考えていきたい」としている。

◇

桃の会の次回定例会は12月19日午前10時から、甲府・県男女共同参画推進センターで開かれる。兄弟姉妹が語り合う場も設ける。参加費は1家族500円。

兄弟姉妹が語らう場で体験を話す大林裕さん　＝甲府市内

苦しみ 抱え込まず話して

全国家族会担当者に聞く

ひきこもり当事者の兄弟や姉妹はどう対応すればいいのか。KHJ全国ひきこもり家族会連合会本部で、兄弟姉妹の会を担当しているソーシャルワーカー深谷守貞さん(51)は「まずは自分の生活を第一に考えた上で、既存の社会制度や相談窓口を積極的に利用してほしい。同じ立場の人が集まる場で葛藤や苦しみを分かち合うことで、心理的な負担を軽減することにもつながる」と話す。

深谷守貞さん

―ひきこもり当事者のきょうだいの実数は。

詳しい調査はない。内閣府調査では115万人の当事者がいるとされることから、国勢調査に基づくと80万人以上のきょうだいがいると推計される。

―支援の状況は。

当事者や親に比べて手薄な状況。KHJ本部は月1回のペースで兄弟姉妹の会を開いている。参加者は20～60代と幅広い。全国の55支部では埼玉（埼玉けやきの会）、静岡県浜松市（NPO法人てくてく）、福岡（福岡「楠の会」）が兄弟姉妹の会を設けているが、新型コロナウイルスの感染予防のため休会している支部もある。

―どのような相談が寄せられるか。

親の高齢化で先行きに不安を感じて相談に訪れるケースが多い。「きょうだいのひきこもりに親の介護が重なり、どうしていいか分からない」と困難な状況に直面している人も少なくない。一方で当事者は「働いたり家庭を築いたりしているきょうだいを見ると、劣等感にさいなまれる」と兄弟や姉妹を避けることもある。当事者、親、兄弟姉妹の三者とも、接し方や距離感に悩んでいる。

―きょうだいにはどう助言しているか。

きょうだいの扶養義務は生活に余力がある場合の「生活扶助義務」で、親代わりになる必要はない。道義的な責任を感じるのは理解できるが、まずは自分の人生を第一に考えてほしい。社会とのつながりがあるきょうだいは社会制度を使いこなす能力が高い。ひきこもり当事者や家族を支援している保健所や市町村の自立支援窓口などの利用を促している。また、兄弟姉妹の会の参加者からは「誰にも相談できず悩んでいたが、同じ立場の人がほかにもいることを知ってほっとした」との声が聞かれる。抱え込まず、思いを打ち明ける場に参加して、つながりを持つことも大切だ。

日常の社会派

山崎ナオコーラ　㊾

保育園まで子どもたちを送っていく道にサクラの赤い葉がたくさん落ちていた。2歳児がそれを拾い、園に着いたら、

「赤くなっていたの」

と先生に渡していた。

…と愚痴のようなことを書いてしまったが、とにかく、私にはここ数年、ゆったりと季節を感じられるシーンがない。送迎だけが、外界に開かれた窓だ。

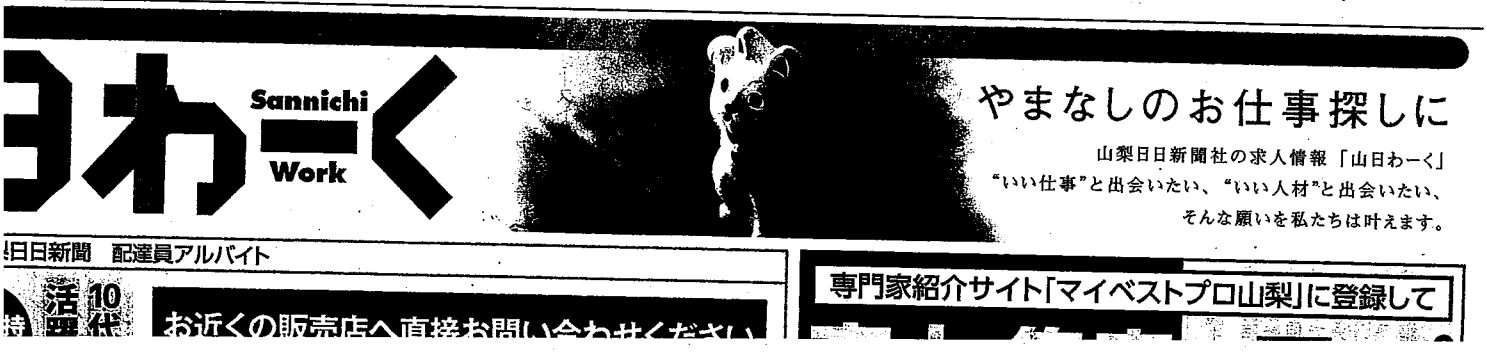
「日焼けしましたね？」「はい、送迎で」「〇〇のニュースを知ってますか？」「送迎時の雑談で知りました」「今日、雨が降りましたよね？」「送迎のときは降っていなかったので気がつきませんでした。毎日まうにスケジュール作りに悩んでいる。子どもたちが園に行っている間は好きなタイミングで飲んだり排せつしたりできるが、とはいえその時間はみっちり執筆をしたいので、やっぱり、ず

本、90歳）

ある日、膝が痛く通院していた妻が帰宅するやいなや「すぐ入院することになった。期間は2カ月程度」とすんなり言った。私はそれを聞いて「さあどうしよう。明日からの生活は」と、ただオロオロするばかり。

米をといだこともなく、電子レンジもあまり使っていない。洗濯は、掃除は、炊事は、

あえ
クッキングスタジオ



日日新聞　配達員アルバイト
活 10代
お近くの販売店へ直接お問い合わせください
専門家紹介サイト「マイベストプロ山梨」に登録して